

■ 2007年7月15日(日曜日)

献血で 救える命 救える未来

本県で献血運動推進全国大会を開催



献血する若者に声をかけられる皇太子殿下（敦賀市あいあいプラザ）

昭和40年に開始された本県の献血事業。これまでに170万人以上の県民の皆さんのご協力により、多くの尊い命が救われてきました。

健康に暮らすこと、これは私たちの普遍的な願いです。病気やけがの治療を支える輸血。必要な血液の国内自給が重要な課題です。

輸血で助かっている命がたくさんあります。私たちも積極的に献血に協力しましょう。

広げよう運動の輪

広く国民各層に献血制度への理解と協力を求め、献血活動を国民運動として推進することを目的として、開かれる献血運動推進全国大会。今年は7月4日、サンドーム福井で全国各地から関係者約2,400人が参加して開催されました。

式典にご臨席された日本赤十字社名誉副総裁の皇太子殿下は、先月ご自身が入院されたことにもお触れになり、「献血運動の輪が、ここ福井大会を契機にますます広がり、多くの国民の皆さんの献血への理解と協力が一層深められていくことを希望します」とお言葉を述べられました。

また、地元主催者を代表して、西川知事は「近代医学の基本をつくり、日本赤十字社病院の初代院長となられた橋本綱常先生の出身地であるこの福井で、本大会が開催されることは誠に意義深い。献血事業がますます発展することを念願しています」とあいさつしました。



皇太子殿下ご臨席のもと、あいさつを述べる
大会実行委員会会長の西川知事

忘れられない善意の温もり

体験発表では、おおい町の安永真由美さんが、白血病で亡くなられたご主人が、生前受けた

また、坂井市の宮川大さんは、白血病を克服した体験をもとに、「治療中に触れた輸血パック



安永真由美さん

輸血での献血者への感謝の気持ちから、現在、積極的に献血に協力していることを発表。闘病中の人たちに「大丈夫。きっとよくなるよ。一人じゃないから、みんながついているから」とメッセージを送りました。



宮川大さん

のほのかな温もりが忘れられない。温かい善意によって命を救っていただいた」と、献血者への感謝と献血の大切さを訴えました。



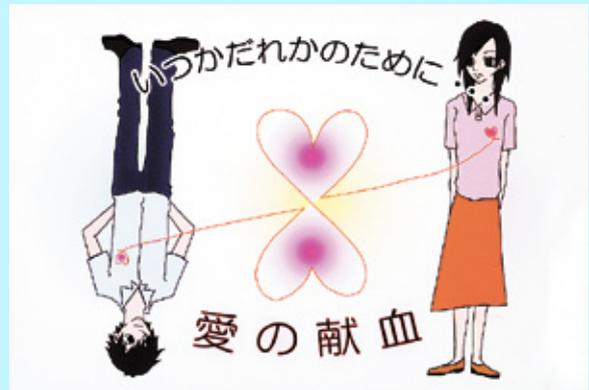
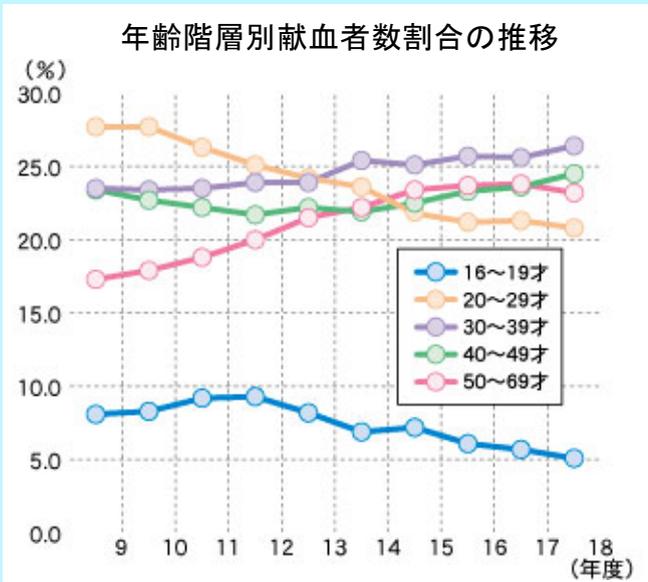
ポスターデザインコンクール
最優秀賞(中学校の部)
鯖江市鯖江中学校 志田夕華さん

若者の積極的な協力を

本県の献血者数の割合について見てみると、40代・50代の割合は増加傾向にあり、全国平均を上回っていますが、10代・20代の割合は減少傾向にあり、全国平均を下回っています。

少子化により献血を支える若年層が減少する中、高齢者の増加に伴い血液需要の増加が見込まれ、血液の安定的な確保が大きな課題となっています。

献血で救える命、救える未来があります。一人ひとりが献血について考え、積極的なご協力をお願いします。



ポスターデザインコンクール
最優秀賞(高等学校の部)
福井商業高等学校 鹿嶋由貴さん

この記事に関するご意見・お問い合わせは 福井県医務薬務課 TEL0776(20)0346 までどうぞ

